

## 現在の北海道と北海道の将来

### ～広大な北海道の人流と物流～

「やっば、北海道っしょ！」 旅する北海道民が支える北海道観光

加藤 由紀子

#### 1. はじめに

新型コロナウイルス感染症の位置づけは、令和5年5月8日から「5類感染症」になり、日本各地でイベントが復活し、訪日外国人も多く往来するようになりました。北海道も賑わいをとりもどしているように見えます。ともすれば、道外客や訪日外国人の増加に目がいきがちですが、実は北海道観光は北海道民の域内観光に大きく支えられているのです。

2022年度の観光入込客数（実人数）によると、観光客全体で4,229万人、内道内客は3,756万人（内日帰り客は2,913万人）、道外客は404万人（内日帰り客は12万人）、外国人観光客は69万人でした。構成比は、道内客88.8%、道外客9.6%、外国人1.6%です。ちなみにこの構成比は過去最高の観光客入込数を記録した2017年（平成29年）度の構成比（道内客84.2%、道外客10.8%、外国人5.0%）と大きく変わりません。

観光は、裾野のひろい経済活動が特徴のひとつです。観光業は、旅行業、交通産業、宿泊業、飲食産業、アミューズメント産業、土産品産業、旅行関連産業等幅広い分野に広がっており、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言やまん延防止等重点措置といった行動制限の発令が、大きな影響を与えました。しかしながら、行動制限で移動が制限されていても北海道の観光消費は道民によって行われていたのです。

2021年度の観光客が1回の観光行動で消費する金額は、道内客は9,910円、道外客は78,811円と道内客の消費は少ないように見えますが、観光総消費額は、道内客が3,293億円、道外客は2,057億円と北海道の観光消費を支えています。

また、観光関連産業部門に消費や投資が発生した時に、次々と他産業への生産の誘発が広がっていく経済波及効果は、観光消費により生じる直接効果と第一次間接効果の和が5,802億円、第二次間接効果が1,124億円で合計6,926億円と推計されています。

#### 2. 観光とはなにか

これまでいくつかの数字を並べましたか、このデータの基礎になるものは、行祭事（歴史的催し・祭り、郷土芸能等）・イベントに訪れた人数及び観光地点を訪れた観光客の人数からなりたっています。観光入込客とは、「日常生活圏以外の場所へ旅行し、そこでの滞在が報酬を得ることを目的としない者」、観光入込客数とは「都道府県の観光地点を訪れた観光入込客をカウントした値」となっています。

共通基準において観光とは、「余暇、ビジネス、その他の目的のため、日常生活圏を離れ、継続して1年を超えない期間の旅行をし、また滞在する人々の諸活動」ですが、実は観光の定義はまだ統一的なものがありません。私は、現在の「観光」を意味づける概念として、「移動」「交流」「事業」の3つを挙げたいと思います。

この統計でも使われている「宿泊旅行」「日帰り旅行」とは、2017年旅行・観光消費動向調査（国土交通省）によると、宿泊客旅行を「自宅以外で1泊以上の宿泊をするすべての旅行」、日帰り旅行を「片道の移動距離が80km以上、又は所要時間（移動時間＋滞在時間）が8時間以上の非日常圏への移動」としています。この基準でいえば、札幌を起点とすると道路運送では80km台では滝川市、砂川市、新十津川町、古平町、留寿都村、京極町、積丹町、真狩村となります。札幌発着のバスツアーで利用が多い富良野や洞爺湖や登別温泉、旭川の旭山動物園では、富良野市は110km台、登別市は120km台、旭川市は130km台とはるかにこの基準を超えます。それを可能にしているのは、北海道の高規格道路です。

しかし、北海道の高規格幹線道路は、総延長1,825kmのうち1,183kmしか開通しておらず。開通率は全国86%に比べ65%と低いのが現状です。また、北海道内の交通機関の旅客運輸分担率は、JRが20.1%、路線・貸し切りバスやハイヤータクシーなど自動車運送が41%を占めますが、これらの交通の乗務員の慢性的な不足は危機的な状態で、日常生活だけでなく、北海道観光にも大きな影響をもたらしております。

### 3. 道民の旅行先

北海道観光の特徴は、道民の北海道内での観光旅行がとても多いことです。一般的に面積の小さい都府県ほど域外への旅行が多く、また人口が多い都府県や三大首都圏に近接しているところも同様です。しかし、北海道は都道府県別では全国一広い面積を持ち、2か所の世界遺産、それぞれ6か所の国立公園と国定公園、1つの国設公園があり、国宝2件を含む319件の文化財、特別史跡五稜郭を含む計55件の史跡が指定されています。加えて都道府県別人口は8番目で、3大都市圏を除くと1番多く、しかも北海道の人口の42.6%が札幌圏に集中しています。当然ではあるのですが、道内旅行が多いことは意外に知られておりません。

2022年度の圏域別観光入込客数（延べ人数）によると、道央圏（石狩・後志・空知・胆振・日高）が構成比53.9%と一番多く、道北圏（上川・留萌・宗谷）が15.6%、道南圏9.3%、十勝圏8.4%と続きますが、圏域別宿泊客延べ数となると、道央圏が構成比60.7%、道南圏12.5%、道北圏11.1%となります。道南圏の宿泊延べ数の構成比が伸び、道北圏が減るのは、札幌からの中心都市への距離や交通アクセスの時間が短く、日帰り観光のシェアが多いからと思われる。

もうひとつ特徴的なことは、道内客の観光入込客数は夏場をピークとする4月から9月で8割を占めることです。道外客もピークは夏場にきますが、7月から12月で6割、特に9月以降の減少は緩やかです。この理由としては、日帰り旅行が圧倒的に多いことなどいくつかの要因がありますが、北海道民はやはり4月から9月までの気候の良い時期に旅行することが、長い冬を乗り切るひとつの楽しみとして根付いているとも考えられます。

一方、札幌に目をやると、2022年度に札幌を訪れた観光客は約1,310万8千人で、前年度と比べると66.1%増えました。過去最高値はコロナ禍前の2018年度の15,84万6千人ですので、順調に回復してきたと思われる。道内客929万8千人と道外客381万人の構成比は、札幌市の人口が北海道の総人口の約38%の196万人が含まれない道内客が70.9% 道外客が29.1%です。日帰り客と宿泊客の割合は例年ほぼ半々です。

このように、認知度や魅力度、イメージなど調査している「地域ブランド調査 2023」で、全国で最も魅力的と評価された北海道や市区町村部門の札幌市も、実は北海道民の観光で支えられているのです。

#### 4、これからの北海道観光

では、北海道観光は、コロナ禍明けはどのように変化していくのでしょうか。一般的に旅行者が旅行先に求めるものとして、美しい自然を堪能する、温泉に入る、おいしいものを食べる、歴史文化に触れるなどが老若男女問わず、こうした問いの答えの上位を占めます。これらについては変わらないであろうと考えます。北海道は12の国立・国定公園を持ち、温泉地の数も総湧出量も全国トップクラスという恵まれた自然環境があります。それら観光資源に至るまでの経路や、資源の活かし方に、今後一層の創意工夫がもためられていくでしょう。

今年アドベンチャートラベル・ワールドサミット 2023(ATWS2023)北海道が9月に開かれました。アドベンチャートラベルとは、アクティビティ、自然、文化体験のうち、2つ以上で構成される旅行形態で、欧米豪の富裕層を中心に年々拡大しています。

開幕前には、北海道以外の地域を含む22コースのプレ・サミット・アドベンチャー(PSA)が行われ、その後31の北海道内の視察ツアー「デイ・オブ・アドベンチャー(DOA)」が実施されました。アジア初開催とのことで商談会など、海外などからも多くの参加がありました。

アドベンチャートラベルは、「旅行者が地域独自の自然や地域のありのままの文化を、地域の方々とともに体験し、旅行者自身の自己変革・成長の実現を目的とする旅行形態」とされています。とても良い理念なのですが、「アドベンチャートラベル」という言葉の響きから、どうしても屋外のハードな体験が連想されること、経済効果が高いことから現在のところ訪日外客の、特に富裕層に照準をあわせていること、などから、まだまだ北海道の中では認知されていないように思います。しかし、今回設定されているツアー内容を見ると、すでに国内旅行や日帰りツアーとして実施されているものもあります。アドベンチャーツーリズムの理念はこれからの観光に重要であるので、もう少し濃く道民に合わせたものにしていくと、この分野でもっと道民の参加が望めるでしょう。

もう一つは、学びの旅です。旅行への動機には、気分転換を求める、好奇心を満たすなどの心理的要因が多いと言われていますが、コロナ禍を経て、旅が自分の気持ちや生活の中に占める部分が以前より増えてきたように思います。

UNWTO(国連世界観光機関)では、「サステナブルツーリズム(持続可能な観光)」を「訪問客、業界、環境および訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光」としています。

サステナブルツーリズムが従来観光と異なるのは、観光客が観光地でコンテンツを消費し楽しむだけでなく、地域の住民や企業のニーズにも対応し、地域経済や環境、社会文化に好影響を与えることが求められていることです。実は、この考え方は、コロナ禍がきっかけではなく、すでに20年ほど前から存在しています。

このサステナブルツーリズムをもっと進めた形のリジェネラティブ・ツーリズム(再生型観光)は、旅行先に着いたときよりも、去るときのほうが環境がより良く改善されて

いるという状況を目指して。旅行者と住民が地域を再生する旅行形態です。先進地では、先住民族固有の土地、文化、知恵による関与を強く推し進めています。これら地域住民などが自分たちの住んでいる所を労り、訪問客に地域を知ってもらおうという活動は、今後広がっていくと考えられます。こういった取り組みに、旅行者も積極的に参加していくことも必要ではないでしょうか。

また、旅行先もこれまでの定番というより、今までに訪れたことのない地や、これまで以上に深く地域へ入り込む、一か所でゆっくり過ごすといったことが好まれてきたようです。日常生活圏を離れて他所を訪問するということは、自分のいる地域を知ることにつながります。そして、旅で得たものは、地域に還元できるものがあります。北海道には、人も資源も魅力的なものがたくさんあるので、これからはいろいろな切り口で私たち北海道民が北海道を楽しんでいくことが、今後の北海道観光を支えいくことに繋がると考えます。

